



「三六災害50年」から学ぶ「地域防災力の向上」 ～平成23年度全建賞授賞～

1年2ヶ月の長期間にわたり実施したものであり、単にイベントの実施に留まらず、その後の地域住民の自発的な地域防災活動に結びつくなどの点を評価されました。

三六災害50年シンポジウム



リレー式パネル展示



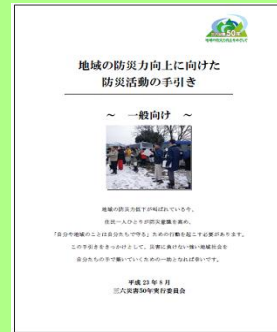
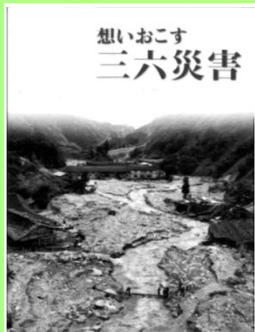
防災訓練



リレー式座談会



これらの取り組みを通じて作成した主要な資料



～平成24年6月29日に表彰式が開催されました～



実行委員会を代表して、北澤秋司信州大学名誉教授に出席していただきました。
(左側: 中部建設協会 福田晴耕理事長 右側: 北澤秋司信州大学名誉教授)



伊那谷の17の国及び県の防災関係機関等と22の関係市町村で実行委員会を組織するとともに、社団法人中部建設協会と連携を図り、一昨年10月から昨年12月までの約1年2ヶ月の長期間にわたりシンポジウム、パネル展示、防災訓練及び座談会などの約100の事業を実施しました。また、これらの取り組みを通じて作成した主要な資料等は、三六災害50年実行委員会の声明(H23.12.14)で指摘されている「災害資料等の継承」や「地域防災コミュニティの強化や避難行動に結びつく防災学習の継続」などを目的とした地域住民の自発的な地域防災活動への活用が期待できます。